

■ 食育に、土—食べもののつながりを

そして何より、地域の子どもたちに、伝わり受け継がれていきます。

平成16年度には、芳賀町が文部科学省の食育の研究指定を受け、芳賀北小学校がモデル校になり、3年生がジャガイモを中心にした総合的な学習を展開。研究会の小久保行雄さん、手塚孝夫さんが地域の先生として協力しました。

たねいもの植え付けから、芽かき、土寄せ、収穫までの体験を指導するほか、ジャガイモの肥料について小久保さんの堆肥工場で、堆肥を使った土づくり・有機栽培について会員の畑で現地学習を積み重ねてきました。いもが土の中にできること、ひとつのたねいもからたくさんできることなど、子どもたちには新発見の連続。また、土にさわれなかった子が、手袋を脱ぎ捨てていも掘りに夢中になるなど、研究会員にとっても感動の場面がありました。



小学校の食育でジャガイモ体験学習



いもを育てる堆肥について現地学習

■ 自信を深める子どもたち

締めくくりは、体験学習の成果を報告しながら、子どもたちがつくったジャガイモ料理を楽しむ「ポテトパーティー」。栄養士・調理師の先生からアドバイスを受け、チップス、マッシュポテト、ス

ープ、煮物などさまざまな料理をグループごとにつくりました。

自分たちで育てて収穫し、料理してふるまったことの自信は大きく、子どもたちから「来年はちがう野菜にチャレンジしたい」という声が多く聞こえました。健康が循環する地域づくりが、次の世代に受け継がれていきます。



お世話になった農家を招いて
「ポテトパーティー」



小学3年生がつくったジャガイモ料理の数々

芳賀北小学校 児童の感想文

手塚先生へ
この前は、じゃがいものことを教えてくださってありがとうございました。わたしがよく思いましたのは、「食べるのは、人を良くする」というのがいい話だと思います。あと、手塚先生は、じゃがいもの話を聞いて話してくれただけで、じゃがいものことが分りました。じゃがいもにしろいがあるとはびっくりでした。ありがとうございました。

3の2 女児